

春の足音が聞こえてきた。

球春到来。3月になればプロ野球、そして春の甲子園選抜高校野球が相次いで開幕する。

Baseball一、野球が日本に伝来したのは明治の初め。

米国人 ^{ホーレス ウィルソン} Horace Wilson が、当時の東京開成学校予科（現在の東京大学）で教鞭を執る傍ら生徒に野球を教え、その後全国的に広まったと伝えられている。

その時代にも球春の訪れに胸躍らせる若人がいた。俳人正岡子規である。

彼は野球をこよなく愛し、文学を通じて野球の普及に貢献した。

ピッチャー＝投手、キャッチャー＝捕手、バッター＝打者、ランナー＝走者等…、野球用語を数多く翻訳したのも子規である。

「九つの人 九つの場をしめて ベースボールの はじまらんとす」

ベースボールの歌九首より 正岡子規

Horace Wilson も正岡子規もその功績から後に野球殿堂入りを果たしている。

ふるさとの風 弥生

Field of Dreams —白球の記憶—

神都の野球人 沢村栄治と西村幸生

倉田山球場は、伊勢神宮にほど近い小高い丘陵に位置する。この地に建設されたのは昭和 38 年（1963）。それ以来倉田山公園野球場として親しまれてきた。昨年から全面改修が進められ、今春開幕を待つばかりである。球場前に設置されている二人の野球選手の胸像は、伊勢の野球史を見守り続けてきた。

沢村栄治と西村幸生一、プロ野球草創期に貢献・活躍し戦場に散った偉大な投手である。

— Legend of Eizi Sawamura —

昭和 9 年（1934）11 月 20 日、静岡草薙球場 日米野球戦第 10 戦。

9 戦目まで、日米の実力の差は歴然で日本選抜は 1 勝もできず 9 戦全敗。しかし、この試合は違った。ベーブ・ルースらをそろえ最強と謳われた全米選抜チームが“サワムラショック”に揺れた。マウンドに立っているのは、沢村栄治投手。快速球とドロップが冴えわたり全米軍は手も足も出ない。初回あのベーブ・ルースからも三振を奪い、終わってみれば 9 奪三振被安打 5 に抑え完投。試合はルー・ゲーリックのホームランによる 1 失点で日本選抜は惜敗であったが、メジャー・リーガーたちが唯一“真剣”になった一戦であった。

17 歳の少年の右腕が見せた快挙に日本中が沸いた。翌日の新聞は伝説の日米決戦を「沢村無頼の出来」「正に大リーグ級」と報じた。この試合は全米にも報道され“スクールボーイ・サワムラ”の快投は、鮮烈な印象を残したのである。

稀代の速球投手・沢村栄治は大正6年(1917)2月1日、宇治山田市(現伊勢市)岩淵町で産声をあげた。野球を始めたのは小学校に入学してすぐ。明倫小学校野球部では、エース沢村の投げの試合はアウトの半分以上が三振で占められたという。類い希なスピードとコントロールを身につけた沢村の名は「神都の大投手」として全国に知られていった。

京都商業へ進学した沢村の投球にはさらに磨きがかかった。三回の甲子園出場を果たし、一試合25奪三振を記録するなど大投手の片鱗を見せた。

明倫小、京都商業と通算5年間沢村とバッテリーを組み、甲子園にも出場したキャッチャーの故山口千方石^{せんまんごく}氏は沢村の1年後輩。沢村の剛速球は、「両手で止めるのが精一杯だった」といい、山口氏の手のひらはずっと腫れあがった状態で指は変形して曲がらなくなっていた。そして、沢村について、「天才には違いなかったが、その努力は大変なもので、1日300球くらいは練習で投げていた」と語っていたという。戦場に散った沢村の貴重な生き証人だった山口氏も、2003年夏この世を去った。

沢村の浮かび上がるような速球、そして落差のあるドロップが、従来の中高等学校野球レベルをはるかに超えている事は関係者の目には明らかだった。

昭和9年(1934)甲子園夏の大会終了後、沢村は京都商業を中退し、日米野球のために結成された日本選抜チームに参加。17歳の“スクールボーイ・サワムラ”は全米選抜チーム相手に快挙を成し遂げたのである。その後、日本選抜チームが中心となって巨人軍の前身である大日本東京野球倶楽部が発足。日本初のプロ野球球団が誕生した。翌年から2年間、大日本東京野球倶楽部がアメリカ遠征を行っている頃、日本ではついにプロ野球6球団が産声を上げ、リーグ戦がスタートした。この年の9月25日、東京巨人軍の沢村は、甲子園で宿敵大阪タイガースの重量打線を相手にノーヒットノーランを達成している。

昭和11年(1936)プロ野球初の公式戦は、巨人が沢村の3連投で同率首位のタイガースをプレーオフの末下して初代チャンピオンとなった。プロ野球ファンを熱狂させた3連戦は、今も“伝説の一戦”として語り継がれている。

翌12年も沢村の投球は冴え渡り、タイガース相手に2度目のノーヒットノーランを記録、24勝4敗の成績を納め最多勝、防御率1位を獲得、満場一致で最高殊勲選手(MVP)第一号の荣誉に輝いた。

この年、タイガースに1人の新人投手が加わった。

のちに初代巨人キラーと呼ばれた西村幸生である。



— Legend of Yukio Nishimura —

西村幸生は、明治43年(1910)11月10日、沢村栄治より7年早く宇治山田市大世古町で生をうけた。大正6年(1917)厚生小学校に入学。三重県で最初に小学生の野球チームを作った伝統校で主力選手として活躍するようになる。市内の小中学校では西村の通った厚生とのちに沢村が入学する明倫は、ずば抜けて野球の強いチームであった。

宇治山田中学(山中^{やまぢゅう})進学と同時に野球部へ入部した西村は、すぐに頭角を現し強肩を見込まれて三塁手から投手に抜擢、大きく飛躍する。エース西村を擁する山中は県内の大会でことごとく

優勝。県内に敵なしといわれた。山中卒業後は、愛知電気鉄道（現名鉄）を経て関西大学へ入学。エースとして主将としてチームを牽引し、破竹の四連覇達成の立役者となり関大黄金時代を築いた。また、関西に遠征した格上の東京六大学を次々と破り西村幸生の名を全国にとどろかせた。昭和12年（1937）阪神タイガースに入団。すでに26歳になっていた西村は、当時宿敵巨人軍の大投手として評判の高い同郷の沢村栄治に対抗心を燃やしていった。

— Sawamura VS Nishimura —

プロ野球発足後の2年間、シーズン最後を飾る優勝決定戦はいつも東京巨人軍と大阪タイガースの両チームで争われた。今なお、同カードが「伝統の一戦」といわれるのはそのためである。その時期にエースとして両チームを背負っていたのが宇治山田市出身の二人。沢村栄治と西村幸生だった。足を高く振り上げるフォームから生み出される剛速球とドロップが武器の速球投手としてならした沢村に対して、西村は多彩な変化球と緩急自在の投球術。そして天下一品のマウンド度胸が持ち味であった。

沢村の巨人軍での栄誉は計り知れない。5年間で63勝を挙げ三度のノーヒットノーランを達成。またプロ野球初代の最高殊勲選手（MVP）にも輝いている。一方西村は、「初代巨人キラー」として沢村と投げ合い、2年連続でチームを二度日本一に導き、3年間で通算55勝を挙げた。酒をこよなく愛し、主戦投手をもじり“酒仙投手”の異名も取ったのは有名な話である。二人のドラマチックなライバルストーリーは、野球ファンを大いに魅了し観客動員にもつながった。

— 戦禍の果てに —

戦局は悪化の一途をたどり、両選手の野球人生にも大きな影を落とすことになる。

昭和13年（1938）沢村栄治に一度目の召集がかかる。2年後、兵役を終えてプロ野球に復帰するも過酷な戦場で肩を壊し全盛期の剛速球は失われていた。しかし、球威は落ちながらも緩急を織り交ぜたピッチングに切り替え三度目のノーヒットノーランを達成している。この年、西村は3年間の現役生活に自らピリオドを打ち家族と共に満州へと渡った。昭和16年（1941）シーズン終盤に沢村は二度目の召集を受け戦地へ…。再び復帰した時には、すでに彼の投手生命は絶たれていた。最後の登板は昭和18年（1943）7月6日宿命のライバル阪神戦。3回までに8つの死球と2本のヒットを許し失点5。二度とマウンドに戻る事はなかった。翌年巨人軍より解雇。やがて三度目の召集令状が届く。昭和19年（1944）12月、台湾沖で27歳の生涯を終えた。『必ず帰ってくる。帰ってきたら、いい父親になる。』沢村が妻に残した最後の言葉である。一方満州の西村もこの年に召集。『すぐ帰る、心配するな。ビールをうんと貯めて待っている。』と家族に告げ、家を出たという。翌年フィリピンで果て、二度と妻子の元に帰ることはなかった。35歳であった。

悪夢の戦争で命を落とした両選手は、故郷伊勢市で静かに眠っている。沢村栄治の墓は岩渕の一いちよぼ誉坊墓地にある。墓石の上ののっている野球ボールの正面には彼が深く愛したジャイアンツの「G」、そして裏面には永久欠番の「14」が刻まれている。また西村幸生の墓は大世古の新墓にあり、墓碑銘は「幸岳院悟参球道居士」。タイガースのマークが入った線香台、バット型の花台が設置されている。

— 栄光への勲章 そして 平和への祈り —

昭和 20 年 (1945) 巨人軍は沢村栄治の背番号 14 を、初の永久欠番としてその功績を讃えることにした。二年後には、プロ野球で最も活躍した投手に与えられる称号を「沢村賞」と制定。さらには、昭和 34 年 (1959) 野球殿堂が創設されると、プロ野球功労者として殿堂入りの第 1 号となった。西村も昭和 52 年 (1977) 野球界に対する貢献が認められ、野球殿堂入りの荣誉に名を連ねることになる。

故郷伊勢では、倉田山球場に昭和 48 年 (1973) 沢村栄治の胸像が建立され、その二年後には山中 OB らの尽力により西村幸生の胸像が向かい合うように建てられた。

また、少年野球の小学生の優勝旗を沢村旗、中学生の優勝旗を西村旗と名付け偉大な先輩をめざし熱戦が繰り広げられている。

平成 26 年 3 月 10 日、新しく生まれ変わった倉田山公園野球場のこけら落としとしてプロ野球オープン戦巨人-阪神戦が開催される。両選手の胸像は並んで設置され観客を招き入れる。伊勢市での「伝統の一戦」は、戦後間もない昭和 24 年 (1949) 船江の山田球場での沢村栄治と西村幸生の追悼試合以来の 65 年ぶりとなる。今回、二人の名投手に敬意を表して巨人の全選手が沢村栄治の背番号「14」を、阪神の全選手も西村幸生の「19」のユニフォームを身に付けて試合に挑む。試合開始は、午後 1 時—。

伝説の大投手生誕の地に新たな歴史が刻まれる。

日本のプロ野球が誕生して 80 周年を迎える。昭和 9 年 (1934) のベーブ・ルースら全米選抜チームの来日がきっかけとなった。“スクールボーイ・サワムラ”のあの時である。日本人投手の米大リーグへの挑戦は、これを起点に始まったと言ってもいいだろう。

あの時から 80 年…。現在メジャーリーグでは多くの日本勢が活躍している。沢村賞投手である田中将大選手の米大リーグ挑戦も今年実現した。

しかし、もしも歴史を修正できるならば……信じたい。

メジャーリーガー第 1 号は沢村栄治であったはずだと—。

戦後 70 年近くが経とうとしている。

私たちは、幸せなこの時代を生きる事に感謝しなければならない。

偉大な先人達の全盛期を知る人は少なくなりつつある…。

その事実を後世に伝えていく事も今を生きる者の証ではないだろうか。

戦前の伊勢は野球王国だったのだ。

春風の芝、津々浦々で響き渡る声が聞こえる—

プレイボール！

図書館だより No.145 増刊 平成 26(2014)年 3 月 1 日発行

(編集・発行) 伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社 図書館流通センター (住 所) 〒516-0076 伊勢市八日市場町 13-35
(電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078 (ホームページ) <http://ise.lib.city.ise.mie.jp/>

© 2014 mami ishikura

【ふるさとの風 2014年3月 Field of Dreams 参考資料】

- ◆ NAG I 01 創刊号 平成12(2000)年6月号 特集「沢村栄治と西村幸生」
- ◆ 日本プロ野球偉人伝 1 (783.7/ニ/1)
- ◆ 巨人軍歴史新聞 (783.7/キ 3F)
- ◆ プロ野球人国記 東海編 (783.7/ブ P174～)
- ◆ 伊勢市史 第5巻 現代編 (L243/イ/5 P177～)
- ◆ 不滅の大投手沢村栄治 (L783/ス)
- ◆ 初代巨人キラー (L783/ナ)
- ◆ 千思万考 乱の巻 (281.04/ク P210～)
- ◆ 日本の名随筆 別巻73 野球 (914.6/ニ/173)
- ◆ 各新聞関係箇所コピー